

インタビュー

# これからの東アジアの平和のために

村山富市・元内閣総理大臣

聞き手 ● 福山真劫・フォーラム平和・人権・環境 代表

今から二〇年前、戦後五〇年の節目に出された「村山談話」は、新しい日本の方向性を打ち出し、アジア諸国の信頼回復につながった。「村山談話」を出された村山元首相に当時を振り返っていただき、「戦争法案」反対のうねりが沸き起こる今、日本の進むべき道をうかがった。

## ● 「村山談話」誕生の経緯

福山 戦後五〇年という節目の年となつた一九九五年。村山さんは首相というお立場で、世にいう「村山談話」を出されました。「村山談話」は、日本が進むべき道を示し、アジア諸国との関係を改善する上で大変大きな役割を果たしました。はじめに、首相として「村山談話」を出そうと思われた動機や「村山談話」に込められた思いをお聞かせください。

村山 私は、一九九五年という戦後五〇年の節目の年を首相として迎えました。本来なら国会の第一党の党首が首相になるのが憲政の常道ですが、わずか七〇議席の社会党の党首であった私が首相になるというのは異例のことでした。ただ、この状況が生まれてきたのは歴史的な必然だろうと考え、五〇年の節目に内政問題やら外交問題やらに一つのけじめをつけ、これからの日本の進む方向性を明らかにすることを村山内閣の使命にしようと思

を固め、首相を引き受けました。

村山内閣の与党だった自社さ三党で五〇年問題プロジェクトを立ち上げ、内政問題では水俣病や被爆者援護法、情報公開、地方分権など、外交問題では過去の歴史に対する反省をふまえアジアのなかで日本への信頼を確固たるものとする方策などを検討し、一定の方向性を打ち出すことをお願いしました。

与党三党の皆さんの努力で、内政問題では一定の解決をみる事ができました。外交問題では国会で過去の歴史を反省して平和決議をすることを二党で申し合わせていたのですが、さまざまな修正が施され、衆院では欠席や反対の議員も多かるうじて決議されたという状況でした。しかも、参院では決議が見送られてしまいました。これではダメだと考えた結果、生まれたのが「村山談話」でした。

一九九四年の首相就任後、中国や韓国、ASEAN諸国を訪問した際、中国や韓国からは日本の過去の過ちへの厳しい批

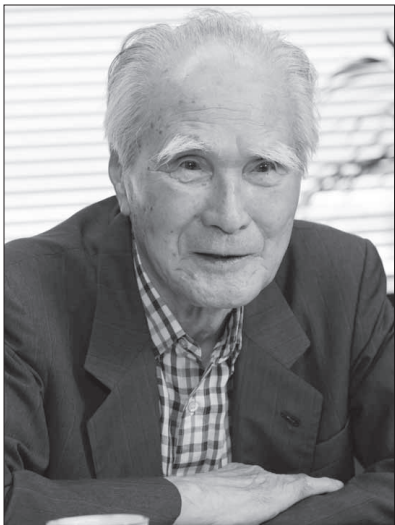
判を感じました。一方、ASEAN諸国からは、戦後いち早く経済大国となった日本からの支援で、植民地から解放された後の国づくりが進んできたことを感謝する声が多く聞かれました。しかし、そのなかでも経済大国になった日本が、いざれ軍事大国になって過ちを繰り返すの

ではないかという懸念があることも感じられました。そこで、戦後五〇年という節目に、日本が戦争に対する反省をし、これから進む方向を新しく打ち出して、アジア諸国から信頼をされる関係をしっかりとつくる必要があると思いました。国会決議がうまくいかなかったので、内閣としての

方針をしっかりと出したと、当時の五十嵐広三官房長官と相談して、首相談話を出すことを決めました。そこで、谷野作太郎外政審議室長を中心に学者の意見をしっかりと聞きながら検討してもらい、「村山談話」ができました。

## ● 「村山談話」の役割

福山 「わが国は、遠くない過去の一時、国策を誤り、戦争への道を進んで国民を存亡の危機に陥れ、植民地支配と侵略によって、多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して



むらやま・とみこ

一九二四年大分県生まれ。徴兵され、陸軍軍曹で終戦を迎える。一九四六年明治大学卒業。日本社会党の大分市議、大分県議を経て、一九七二年から衆議院議員。一九九三年党委員長に就任。一九九四年六月、第八一代内閣総理大臣に指名され、一九九六年一月まで自社さ連立政権を組織。退陣後、改称した社会民主党初代党首。二〇〇〇年に政界を引退。

ふくやま・しんごう  
一九四七年生まれ。一九七〇年大阪市入職。自治労大阪  
市職員を歴任。一九九二年より自治労中央本部役員、  
中執副委員長、書記長を歴任。二〇〇二年よりフォーラ  
ム平和・人権・環境、原水爆禁止日本国民会議事務局長  
を経て、二〇〇九年フォーラム平和・人権・環境、原水  
爆禁止日本国民会議代表に就任し、現在に至る。



を結んで独立し、米国の反共政策の前線  
基地の役割を担わされることになりました。  
た。

敗戦直後の日本では、民主主義が燎原  
の火のように広がっていたのですが、国  
際情勢の変化で、公職追放が解除されて  
旧支配勢力が復活し、労組の先鋭的な  
指導者はレッドパージで追放されるなど、

に新たな首相談話を出すと言っています。  
これに、中国、韓国はもとより国際社会  
の注目が集まり、かえって「村山談話」  
が再認識されるようになりました。それ  
で、近頃、海外のメディアが「村山談話」  
は何かとよく聞きに来るようになりました  
（笑）。

二〇一三年一月に訪中した際に、中国  
の要人から、「安倍首相は、首相就任後、  
最初に中国を訪れて日中首脳会談を行い、  
小泉政権において冷え切った日中関係改  
善を行ったと高く評価されているが、彼  
が『村山談話』を見直すというのはどう  
いうことか？」と質問されました。安  
倍首相も「村山談話」は継承するといっ  
ているから、その言葉に偽りがなければ、  
継承した上で、二一世紀の新しい時代に  
処する日本の方向を打ち出すということ  
だと思おうと答えたのですが、怪訝な顔を  
していました。この時、一緒だった中谷  
元防衛相に乞われて、帰国後、国会の予  
算委員会の休憩時間に、安倍首相に中国

独立後は民主化政策が後退していきまし  
た。こうしたなか、日本の戦争責任や償  
いは棚上げされ、ドイツのように戦争犯  
罪人を国民自らの手で裁くこともないま  
ま、今の日本が形成されてきたわけです。  
そこで、日本は戦争の責任も感じてい  
ないし、後始末もしていないが、そんな  
ことでもいいのかと外国から問われるよう  
な状況になりました。

国を取り巻く状況の違いがあつたにせ  
よ、それで済む話ではありません。国民  
が自ら歴史を反省して、日本が進む方向  
を明らかにすることで、信頼を回復する  
ことが「村山談話」の役割だったと思ひ  
ます。

● 安倍首相と「村山談話」

福山 今の安倍首相が「村山談話」の基  
本骨格を引き継ぐのかどうか、国内外か  
ら多いなる懸念が寄せられています。

村山 「村山談話」によつて、中国や韓国  
ASEAN諸国との間で歴史問題は決着

要人とのやりとりを伝えたのですが、何  
も言わずに迷惑そうな顔をしていました  
（笑）。

戦後七〇年に首相談話を出すというこ  
とは、日本はこれからどうするつもりな  
のか、過去に対する反省はどうなってい  
るのかを問われるわけですから、僕は難  
しいところだと思ひます。

● 重要な東アジア諸国との友好

福山 中国、韓国は日本の重要な貿易相  
手国で、日本の経済成長や発展には、両  
国との関係は切っても切れません。その  
両国と不協和音を立ててどうするのかと  
いう気がします。その上、戦後七〇年を  
経てもなお北朝鮮との国交がないという  
深刻な状況も続いています。

村山 一九九四年の首相就任直後のナポ  
リサミットで、クリントン大統領と一時  
間ほど話をした際、彼から北朝鮮の核  
問題を日本国民はどう思うかと尋ねられ  
ました。そこで、日本は唯一の被爆国で、

したということになっていました。その  
証拠に、一九九八年の金大中大統領と小  
淵首相の間での日韓共同宣言<sup>\*2</sup>や、二〇〇  
八年の胡锦涛国家主席と福田首相の間で  
の日中共同声明<sup>\*3</sup>に繋がつたように、「村  
山談話」以降、歴史問題が争点となるこ  
とはありませんでした。また、日本の歴  
代内閣も、第一次安倍内閣も含めてすべ  
て「村山談話」を継承してきましたから  
「村山談話」は、一つの時代を画した意味  
があつたと思ひます。

ところが再登板した安倍首相は、第一  
次内閣で靖国参拝をしなかつたことは痛  
恨の極みと発言し、尖閣問題で日中関係  
が悪化しているにも関わらず、靖国参拝  
を行いました。痛恨の極みというのは個  
人的な感情であつて、それを解消するた  
めだけに靖国参拝を行うなんて馬鹿げて  
います。

もう一つ、「村山談話」を大筋では継承  
するが、侵略には国際的な定義が定まっ  
ていないなどと疑問を呈し、戦後七〇年

どんなことがあつても核を廃絶したいと  
考えており、とりわけ隣国である北朝鮮  
の核武装はどうして容認できないとい  
うのが国民の偽りのない感情だと答えまし  
た。と同時に、日本と北朝鮮の間には隣  
国としての歴史的な長いつきあひがあり、  
米国と北朝鮮との関係とは違います。戦  
争状態になつている対立関係を解消して、  
元のような友好関係をつくりたいと国民  
は考えているということは知つておいて  
ほしいと伝えました。

北朝鮮の問題は、さまざまな難しい問  
題があつても、二者協議を主体にして、日  
本も日朝ビジョン宣言もあり、主体的  
に努力していく必要があると思ひますね。  
福山 「村山談話」の最後に「<sup>よ</sup>杖<sup>は</sup>信に  
如くは莫し」という素晴らしい言葉が書  
かれていますね。

村山 これは中国の『春秋左氏伝』の言  
葉です。何といつても日本はアジアの一  
員です。一四〇〇年前に遣隋使として中  
国に赴いた人びとは命がけで仏教や技術



などを学びに行きました。日本の文化というものは、古くからの長いアジアとの交流を通して形作られてきたものです。

ましてや、経済大国となつて依存度が高い国同士が仲良く協力し合うことが、双方の国のためになることはどこから考えても否定できません。日本が中国や韓国と対立する意味がないわけですから、友好関係を構築するために努力することが必要です。アジアから孤立した日本に未来はありませんよ。

● 拡がる「戦争法案」への反対運動

福山 安倍首相は「村山談話」についてはあいまいな態度をとっていますが、もう一方で「戦争法案」を衆議院で強行採決しました。

今回の「戦争法案」は、憲法学者の90%が違憲だと主張し、大半の学者や文化人も反対し、七月二〇日の朝日新聞の世論調査でも五七%が反対、国会での成立の必要なしが六九%、説明が丁寧で

い気持ちで立ち上がっています。

六〇年安保が、総評や全学連などが背景になつて運動が展開されていったのに対し、今の運動は自然発生的に学生や若者、主婦が個々に集まつてきて大きな集団になつていくわけです。日本の人びとは、民主主義にめざめて、主権在民という意識をしっかりと自覚しあいながら、我々が日本を守らなければいけないという思いで立ち上がっていると思います。

これは、いいものはいい、悪いものは悪いと、人びとがしっかりと識別して方向を見定めていく国にするいいチャンスだと思います。ある意味、日本の民主革命／民主改革のいきつかけになると捉えて、今回の問題を前進させる必要があるのではないのでしょうか。

来年は参議院選挙があり、今の参議院議員の半数が選挙に出ます。その時に、今回の法案への賛否をしっかりと見定め投票することが、民主主義の基本だし、日本の政治を変えていく大きな力になる

ないという人びとが七二%です。また安倍内閣の支持は三七%、不支持は四六%となつています。だから、あちこちで反対運動が盛り上がり、自然発生的に連携が拡大しています。

「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」\*4が呼びかけた七月一四一五、一六、一七日の戦争法案廃案・安倍退陣の集会にも連日二万人を超える人びとが結集しました。七月二三日の抗議集会での「命がけで憲法を守る」という村山さんの挨拶は、集会参加者の胸をうち、私たちも頑張ろうという決意を新たにしたいと思います。そこで、平和憲法の重要性や「戦争法案」についてご意見をお聞かせください。

村山 私は少年兵として一年ほど兵役に服して終戦を迎えたので、戦場に行つたわけではありませんが、米軍機による空襲でいたるところが焼野原になつた様子はさながら地獄のようでした。そんな戦争が終わつて、平和憲法がつ

はずです。今の国会だけでなく、大きな視野で取り組むことも大事です。

● 傲慢な政治手法と「安倍談話」

福山 「戦争法案」のみならず、沖縄の八〇%以上の人びとが名護市辺野古への新基地建設に反対で、「オール沖縄」の取り組みとして知事を先頭に反対運動をやっています。それでも安倍自公政権は、基地建設を強行しようとしています。こうした一連の安倍首相の政治手法をどうご覧になつていきますか。

村山 安倍首相の権力的な問答無用で力で押し通していく政治手法への批判は強いと思います。彼の「俺が最高権力者だ。俺の言うことはなんでも通るんだ。なぜ俺のいうことが聞けないんだ」という傲慢な姿勢が、多くの人びとが反対する大きな背景になつていてのではないのでしょうか。

私も長い政治の経験のなかで、これほど反対する側の意見をまともに聴こうと

くられました。あの平和憲法を読んだ時は、まさに青天の霹靂で、本当に暗れやかな気持ちになつたことは今でも忘れません。日本の平和憲法は、人権尊重や民主、平和といった、人間としての基本的な原理というものをしっかりと踏まえていますから、どこに持つて行つても恥ずかしくありません。

あれから七〇年、今日まで戦争をせず日本は来たわけです。この七〇年間の日本の歩みは、歴史上例のない貴重な歩みだと思えます。広島原爆死没者慰霊碑に刻まれた「過ちは繰返しませぬから」という誓いが生かされてきたことを思うと、この平和憲法を一内閣の勝手な解釈変更によつて変えることは断じて許されません。

全国で声をあげている若い学生の皆さんも、最近の社会全体の雰囲気の変化を肌で感じて、これでいいのか、これからの日本はどうなるのか、我々の将来はどうなるのかと、居ても立っても居られな

しない傲慢な姿勢の政治家ははじめてです。

福山 衆議院の特別委員会でも、野党からの質問に対する答弁が全然噛み合っていないませんでしたね。

村山 安倍首相は、戦後レジームからの脱却を主張しています。彼の唱える戦後レジームからの脱却の一つは、押しつけられた憲法の自主制定です。もう一つは、個人の権利が強調されすぎたことで日本の従来のも徳心がおろそかになり、今日の日本を誤らせたと考えています。こうした戦後レジームからの脱却のために、安倍首相にとつては、教育基本法や憲法の改正が必要となるわけです。

安倍首相の祖父の岸首相は、六〇年安保の時にも対米従属したまま、平和憲法を空洞化して、米国に自主的に戦争協力する関係を築きたいと考えていました。安倍首相は、祖父の成し遂げられなかったことを自分が引き継ぎ、この機会に実現させたいという歪んだ信念をもつてい

ます。

だから安倍首相は、七〇年談話でも積極的平和主義を強調したいと思っと思います。これまでの日本は平和憲法で戦争をしないということを前提に、平和構築の努力をしてきたけれども、それでは今日の平和は守れない。だから、武力をもつて日本も参加をして、積極的に平和を確立する方向にもっていきたいというのが彼のめざす積極的平和主義です。

積極的平和主義を強調したいのに、その前段で、過去の歴史に対する反省を踏まえたら、そんなこと言いにくくなりそうです。だから過去の歴史の反省や謝罪には、談話で触れたくないというのが安倍首相の気持ちなのでしょう。ただ、それでは内外からの批判が強い。そこで、きちんと謝罪をしている「村山談話」「小泉談話」を継承すると言っているのだから、三度も同じことをいわなくてもいいでしょうと誤魔化そうとしているわけですよ。これだけ世界が注目しているんだから、誤

魔化せるはずがありません。

福山 私たち平和団体の側からすると、「戦後レジームからの脱却」とは、対米従属、対米一辺倒の外交政策から、東アジアにも軸足を置き、敗戦後七〇年になるわけですから、対等の日米関係を築いていく方向へと進んでいくということだと思います。

村山 日米関係が大事であることは、誰も否定しません。でも、日本と中国や韓国、ASEANのアジアの国々との間に分厚い信頼関係があってはじめて日米関係もうまくいくのであって、米国に追随して、その言いなりに動くだけでは米国のためにも、日本のためにもなりません。そこを間違えてはいけません。

時折、「現に尖閣や南沙諸島で中国が力をもつてやってくる以上、日本が防衛しようと思っても単独では無理だから、米国と一緒に防衛しなければいけない。そうすると、米国が困っている時に、日本が力になるのは当然で、どこが

間違っているのでしょうか」と質問をしてくる人がいます。

そこで私は「では、あなたの言う通りになったとして、米国と一緒に中国と対立するのは、そんな対立が起きないように努力をしていくのと、どっちがいいんですか」と問い返すわけです。

安倍首相の言うように、中国の尖閣や南沙諸島への進出や、北朝鮮の核保有といった危機に対する備えをしなければいけないとしたら、双方が備えをエスカーレイトしていった先に待っているのは戦争しかありません。そうならないために外交があるわけです。

二〇世紀、たくさん戦争の経験をしてきて、もう戦争なんか絶対しちゃいけないという二一世紀になりました。戦後七〇年間、日本が平和憲法をもつて現在まで来たことに対して、世界は評価して信頼しているわけです。なのに、またわざわざ昔の日本に戻すようなことをする必要がどうしてあるのでしょうか。それ

は間違いだと言っていますよ。

いずれ、どこの国も日本に学べんとなくなっていくように、日本は戦後七〇年間歩んできた道を貫き通せばいいんです。

### ●自治労や平和団体への期待

福山 最後に日本が二度と戦争を引き起こさない「非戦」を貫き続けるために、自治体で働く人びとが集まった自治労という組織に期待される役割についてお聞かせください。

村山 全体的な日本の動きを掴んだ上で、自治体労働者としての役割を考えてみると、やはり基本に立ち戻って、住民自治が大事であるというところに行きつきます。住民自治の基盤がしっかりつくられた上に、日本の民主主義の基盤ができるわけです。住民自治の基盤をつくることによって、住民の自覚も生まれてくるし、その自覚が日本全体の平和を守っていく大きな力に発展していくはずですよ。

だから地味ではあるけれども、地域に

おける住民自治を強める活動を粘り強くやっていくことが大事じゃないかと思えますね。

また自治労が参加している平和フォーラムの影響は大きいと思います。その運動のなかに戦後ずっと一貫して展開してきた原爆反対の運動が根っこにあって、日本の平和を守っていく上での大きな基盤になっています。粘り強い平和フォーラムの運動については、本当に大事な活動だと敬意を払っています。

福山 私たち平和フォーラムは、戦争させない一〇〇〇人委員会、総がかり行動実行委員会などと戦争法案反対、安倍内閣退陣を掲げ、すべてのみなさんと一緒に闘っています。八月三〇日一〇万人国会包囲などを計画しています。これが実現すれば安倍内閣を大きく動揺させることができると考えています。村山さんの「命がけで憲法を守る」という集会での演説や、今日のお話をしっかりと胸に刻んで、安倍政権や日本が間違った方向にいかない

ように頑張っていきたいと思っています。

村山 お互いに頑張りましょう。

福山 今日は本当にありがとうございました。

(二〇一五年七月二四日於…自治労本部)

- \*1 村山内閣総理大臣談話「戦後五〇周年の終戦記念日にあたって」  
[http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/danwa/07/dnu\\_0815.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/danwa/07/dnu_0815.html)
- \*2 日韓共同宣言「二世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」  
[http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/yojin/arc\\_98/k\\_seongen.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/yojin/arc_98/k_seongen.html)
- \*3 「戦略的互惠関係」の包括的推進に関する日中共同声明  
[http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/visit/0805\\_ksj.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/visit/0805_ksj.html)
- \*4 戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会  
<http://seagaki.com/>
- \*5 毎日新聞「東京新聞」朝日新聞各紙(二〇一五年七月二四日付)